

令和5年5月29日

## 第1回東京都エネルギー問題アドバイザリーボード

午後5時14分開会

**【坂本局長】**

それでは、皆さん、おそろいでございますので、定刻より若干早いんですが、これより第1回の東京都エネルギー問題アドバイザーボードを開会したいと思います。

今回、オンラインでのご出席の委員も含めまして、6名の委員の皆様にご出席をいただいております。ありがとうございます。

東京都産業労働局長の坂本でございます。本日は何とぞよろしくお願いいたします。

初めに、小池知事からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

**【小池知事】**

皆様、こんにちは。東京都エネルギー問題アドバイザーボードへのご参加、ありがとうございます。

この会議は今のタイトル通りでございまして、大状況で言うところの国際情勢を見ますと、気候変動とエネルギー問題、すべてがいつぱんに世界を混乱に貶めているという状況、そして、広島で開催されたG7では、国際秩序の堅持に向けた強い意志と、そして、エネルギー・食料安全保障を含む世界経済、気候変動などが議論されました。

本日までで見ますと、株は高値を付けておりますが、円安140円台、ニューヨークの数字でいうと、石油価格は73\$と言う状況になっているわけでございます。日々の変動はございますが、日本をとりまく大状況は、エネルギーについて、非常に脆弱であるということは変わりがございます。そういう中で、東京都は1,400万都民、また、首都圏全体を含めましての経済規模を考えて参りますと、色んな意味で、大きな役割を果たさなければならない。そういう中で都としまして、2030年にはカーボンハーフ、2050年にはゼロエミッションという目標を掲げて、日々取り組んでいるところでございます。再生可能エネルギーをしっかりと確保するなど、戦略的な行動が何よりも必要でございます。

直近の課題は、この夏の電力需給をどう対応していくかという目の前の問題もございまして、2050年といったような中長期の目標もございまして。そして、これに加え、エネルギーの安定確保に向けた構造的な課題を考えていかねばならない。当面の対応と中長期的な取組の両面から取り組むということで、「東京都エネルギー問題アドバイザーボード」を設置し、皆様方と議論を重ねていきたいと考えてございます。

エネルギーというと、まさに国策でございます。国をあげて取り組むべき課題、そして、東京都としてもゼロエミッションの実現に向けました、再生可能エネルギーの普及拡大、そして電力の安定確保など、なすべきことをしっかりと実行しながら、同時に、国や民間の皆さんを巻き込んでいきたいと考えております。

今日は、オンラインでもご参加誠にありがとうございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。有識者の皆様方の忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。冒頭のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**【坂本局長】**

小池知事、ありがとうございました。

引き続きまして、委員の皆様のご紹介に移らせていただきます。

委員の皆様方から、自己紹介を含めて簡単にご発言いただければと存じます。

それでは、初めに橘川委員、お願いいたします。

**【橘川委員】**

皆さん、こんにちは。国際大学の橘川と申します。私、専門は経営の歴史なんですが、電力会社の社史を旧一電10社中7社ぐらい書いたこともありまして、いろんな現場を回っているうちに政府の審議会等へも参加してまいりました。東京都でも、これまで水素の取組などをお手伝いさせていただきました。

今、ご挨拶にありましたが、今度のG7の担当大臣会議でGHG、従来の2013年比で2030年に46%削減が2019年比で2035年に60%削減になったということは物すごく大きいです。2013年から2019年の

間、既に14%減っていますから、発射台100が86になったところから60%下がりますので、2013年比だと66%削減。新たにまた20ポイント積まなきゃいけない。そうすると、供給サイドだけじゃなくて、需要からも全ての方策を駆使しなきゃいけないということで、東京都の果たす役割は大きいと思いますので、この委員会で手伝わさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

**【坂本局長】**

ありがとうございます。  
続きまして今井委員、お願いをいたします。

**【今井委員】**

こんにちは。今井と申します。よろしくお願いいたします。私、もともと通商産業省出身でございまして、エネルギー政策もかなり長くやっておりました。具体的には、この地球温暖化問題とエネルギー安定供給のバランスをどういうふうに取っていくのかという問題は、実はずっと30年以上携わってまいりまして、現実と理想の乖離の中で非常に難しいかじ取りの一員としてやってきたわけでございますけれども、第4次エネルギー基本計画というのを私は直接担当いたしました。安倍政権下ではパリ協定というのでも各論も含めて随分やらさせていただきました。

今、橘川先生がおっしゃったとおり、あのときは2030年、マイナス26だったものですから、かなり具体的積上げができたんです。今度の第6次基本計画では、東京都はマイナス50%、国全体でマイナス46ということで、これもまた、毎年COP会議をやるたびにだんだん厳しくなっているという連続で、我々はそれに逃げることなく対応しなきゃいけないんですけれども、今、知事がおっしゃったとおり、今現在、この国は7割5分近くがまだ化石燃料に頼っているものですから、電力だけじゃなくて、熱がどうしても電力では補えない。熱というものを化石燃料からどういうふうに展開していくか。答えは水素しかないんですけれども、この辺の移行スピードを上げていくためには、よっぽどの技術開発とインフラ整備計画とがかみ合っていないとできないと思っていて、すみません、国のほうでいろんな議論をしてみましたが、これから東京都という、一国レベルの市場規模を持った具体的なエネルギー戦略に関わらせていただけるということで、できる限り貢献させていただき、具体的に議論をお手伝いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

**【坂本局長】**

ありがとうございました。  
続いて森本委員、お願いをいたします。

**【森本委員】**

森本です。私は環境省でずっと仕事をしてございました。また、原子力規制委員会をつくる仕事、その後、福島復興の仕事などにも関わらせてもらいました。今井さんとはいろんな形で一緒に仕事をさせていただきました。やはりエネルギー問題と環境問題というのは裏表の関係にあると思います。

それともう一つは、供給と需要というのでもまた同時に考えなくちゃいけないことかと思えます。東京都の場合には、まずは大きな需要を持っておられますので、その需要のところで取組というものに注目したいというのが1つであります。でも、それと同時に、例えば東京都がほかの自治体と一緒に供給も含めて考えるということもあると思えます。そういった多面的な形での関わり、具体的な場面での取組について、私も一緒に考えさせていただき、貢献させていただきたいと考えてございます。よろしくお願いいたします。

**【坂本局長】**

ありがとうございます。  
引き続きまして岩船委員、お願いをしたいと思います。

**【岩船委員】**

皆さん、こんにちは。東京大学生産技術研究所の岩船と申します。私は、バックグラウンドは電気エネルギーシステムの評価等をやってきました。審議会の委員等も務めてまいりましたけれども、

基本的に私のエネルギー問題の在り方といいますか、視点は、やはり3E+Sの実現ということを中心として申し上げてきました。

ただ、やはり最近思うのは、3E、安定供給、環境の話、経済性というのはトレードオフがかなりあるなど。かつ、その上で順番がある。恐らく、今、安定供給というのは最も大事ななだと思います。カーボンニュートラルということで環境もマストだとすると、あとはどれだけ経済的な負担ができるかということにある意味尽きる気がします。もちろん全て効率化できて、グリーントランスフォーメーションで産業が活性化して、国民負担なくカーボンニュートラルが実現できるというのは、恐らくこれは幻想だと私は思います。なので、やはり一定程度、国民なり都民が負担する量は増える。その負担できるコストというのがどんなものなのか。それをなるべく抑制するような仕組みを私は考えていくべきではないかと思っています。それにはエネルギーシステム、電力システム、インフラを含め、国内だけではなく、海外を含めた資源というものを考えて最大限いろんな効率化を図っていくことが非常に重要だと思っています。

2050年カーボンニュートラルというのは簡単なことではないと思います。全ての産業を守りながら、これまでの暮らしを変えずに実現するというのは、私は難しいと思います。私の研究は需要家サイドの研究がメインなので、やはり供給だけでなく需要も変わっていかなくてはならない。東京都さんは一番大きな需要地です。どのような需要の在り方が可能なのかですとか、それがどのようなコスト負担を伴うのか。あとは、需要家にどんな不便を強いるのかとか、そういったことも含めて現実的な選択肢を示していくことが重要ではないか。この会議でも一定程度役割が担えればよいのではないかと思います。

もちろん水素は非常に重要なエネルギーではあるんですけども、水素と電化のすみ分け。電気で行えることは電気で行うというすみ分けもあると思います。もちろん水素が一気に展開できればすばらしいんですけども、それは裕福な東京都さんにしかできない施策だけに注力するのではなくて、やはり日本中に横展開できて、日本全体がカーボンニュートラルに向かうような需要側の施策にフォーカスしてぜひ取り組んでいただきたいと思います。そういう議論が今回のこの会合でできることを期待しております。

以上です。

#### 【坂本局長】

ありがとうございます。

続きまして大橋委員、お願いをいたします。

#### 【大橋委員】

ちょっと今日、出先からのものですから、なかなかZoomに参加するのが難しく、申し訳ございませんでした。私、大橋と申します。専門は経済学と、あと公共政策学でございまして、電力などの分野では一部、国の政策立案のお手伝いをしているところもございまして。あと昨年度からですけども、東京大学の副学長も兼務しております。学内の人文社会科学の組織連携及び民間企業との研究上でのコラボを通じて産学共創と我々は呼んでいるんですけども、そうした形で新しい社会的な付加価値を生み出そうというような新たな取組を始めているところです。

本アドバイザーボードですけども、我が国で最も大きな需要を持つ自治体様の立場でエネルギー問題に関与するという意義は、大変大きいのではないかと感じています。思えば電力システム改革という、2020年度で一応の区切りがついた改革がございまして、その発端を振り返ってみると、東日本大震災という過酷事象ではございましたけれども、具体的な取組の原動力というのは東京都を中心とした計画停電に起因したのではないかと感じています。また、電力システム改革後も自然災害による様々な電力の逼迫事象が生じていますけれども、安定供給の手当ての起因になっているのは、やはり東京都を中心とする関東圏内の需給逼迫事象だったのかなとも感じています。その点で東京都様が都民だけじゃなくて、いわば全国の需要家様を代表するぐらいの立場も兼ねて、我が国の経済社会の基盤であるエネルギー問題に一定の関与をしていくことの意義はとても大きいのではないかなと思います。そうした思いで今回アドバイザーボードの委員をお引き受けした次第でございまして。お聞き苦しい点あったかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【坂本局長】**

ありがとうございます。  
続いて竹内委員、お願いをいたします。

**【竹内委員】**

竹内でございます。私は体半分研究者というような形で、専門は環境エネルギー政策の研究、提言というところをやらせていただいていると同時に、産業がきちんとエネルギー産業の中で多様性を持ち、そして新しいプレーヤーが入ってくる必要があると考えまして2018年に起業いたしまして、虎ノ門にありますスタートアップに特化したワーキングスペースでありますC I Cで、東京都さんともいろいろとコラボレーションしながら新しい産業を生むという取組をさせていただいているところでございます。

私、大学を卒業して前職といえますか、卒業してすぐは東京電力に就職いたしまして、まさにエネルギーの現場をいろいろと経験させていただいたその経験が政策を考える上でも、あるいは新しいビジネスを考える上でも非常に有益であったと思っております。先ほど岩船先生がおっしゃいましたけれども、やはりエネルギーというのは必要なときに必要な量が確保されていないとならない。安定供給ということが極めて重要になっている。特に電気というのはインフラ中のインフラと私はよく申し上げますけれども、水道、通信、交通、医療といった、ほかのインフラを支えるといったようなところがございまして。その途絶というのが極めて重要な社会、生活への影響を与えるといったようなところで、災害時も含めて安定供給をいかに確保するかといったようなところで。

加えて経済性というところも極めて重要です。究極の生活必需品、生産財であるといったようなエネルギーの価格上昇は極めて大きな影響を生活経済に与えるといったようなところ。

環境は非常に重要ですが、こういったところへの目配りなしに環境だけで議論するというのもできかねるわけです。私、政府のGX実行会議の委員も拝命いたしまして議論をさせていただきましたけれども、その中で大きく重要だと認識をしておりましたのは、単にCO<sub>2</sub>を減らすということ、これだけを議論するのではなくて、これを契機として、いかに成長戦略にするか、いかにより豊かに、より便利な社会にしていく、国民にとって多様性や持続可能性を確保していくといったような視点でこのGX、グリーンなトランスフォーメーションを考えるといったようなところでございました。

東京都という、本当に日本で最大の需要地であり、かつ東京湾岸には火力発電所もあるといったようなところでもございますので、供給地でもあるといったようなところ。こういったところで具体的なよい事例、よい産業、よいビジネスモデルをつくりながら、息の長いトランスフォーメーションに関わらせていただくというところで、この委員会で議論させていただくことを非常に楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**【坂本局長】**

皆様、ありがとうございました。本日は委員の皆様のご協力をいただきまして、実りある議論をしていただければと存じます。何とぞよろしくお願ひをいたします。

なお、知事は公務のため、ここで退席をさせていただきます。

**【小池知事】**

どうぞよろしくお願ひいたします。

(知事退室)

**【坂本局長】**

また、こちらでプレスの皆様方もご退席をよろしくお願ひいたします。

(プレス退席)